

第4章 将来の水需要と市民の意識

4-1 水需要予測

将来の水需要は、少子化の影響や節水型機器の普及などにより需要増加は見込めない状況にあります。

1) 給水人口の予測

(1) 行政区域内人口の値

コーホート要因法^{※1}による本市の将来推計人口は、少子化の本格的な進行から減少していくことが予測されます。

年度(平成)	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
行政区域内人口(人)	55,909	55,696	55,346	54,995	54,646	54,183	53,721	53,259	52,797	52,335	51,834	51,334

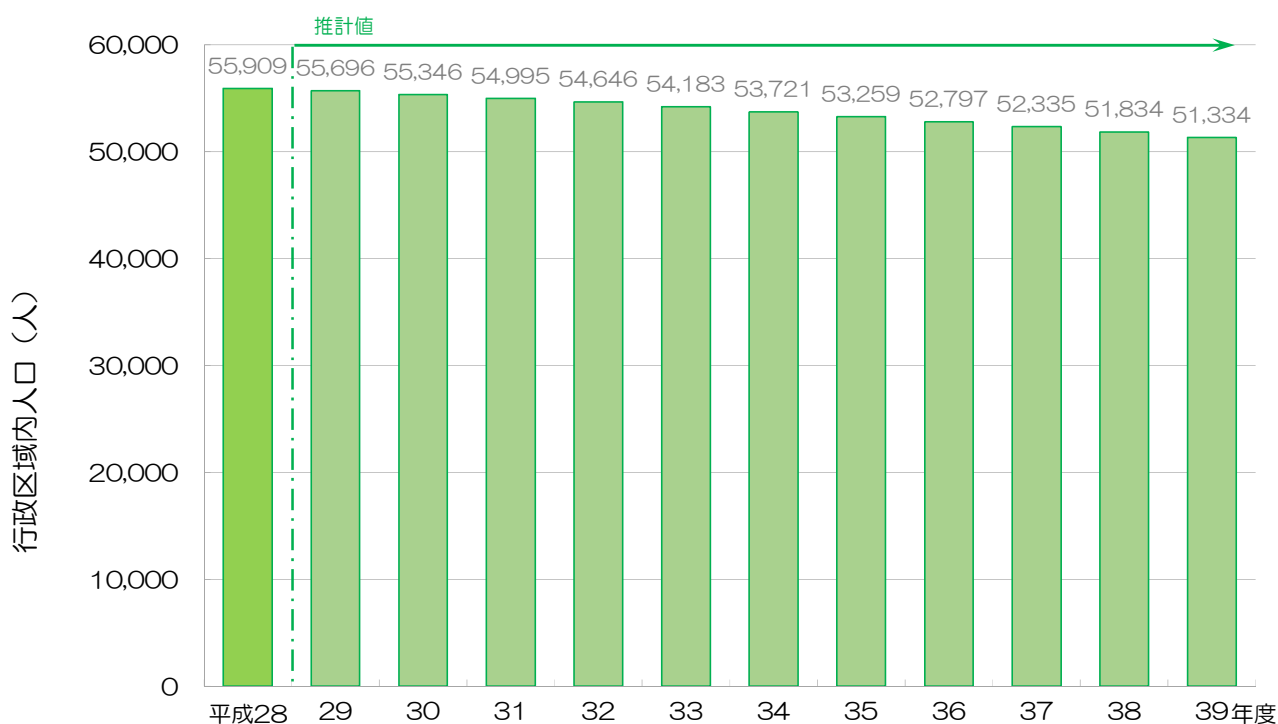


図 4.1 行政区域内人口の推計値

※1：コーホート要因法

男女5歳階級別人口実績から、出生数、死亡数、移動数のそれぞれを推計の過程で計算するため、各計算値が人口数の変化に与える影響を把握することができる推計方法

(2) 給水人口の推計値

年度(平成)	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
給水人口(人)	52,523	52,435	52,128	51,873	51,572	51,204	50,792	50,427	50,014	49,642	49,196	48,715

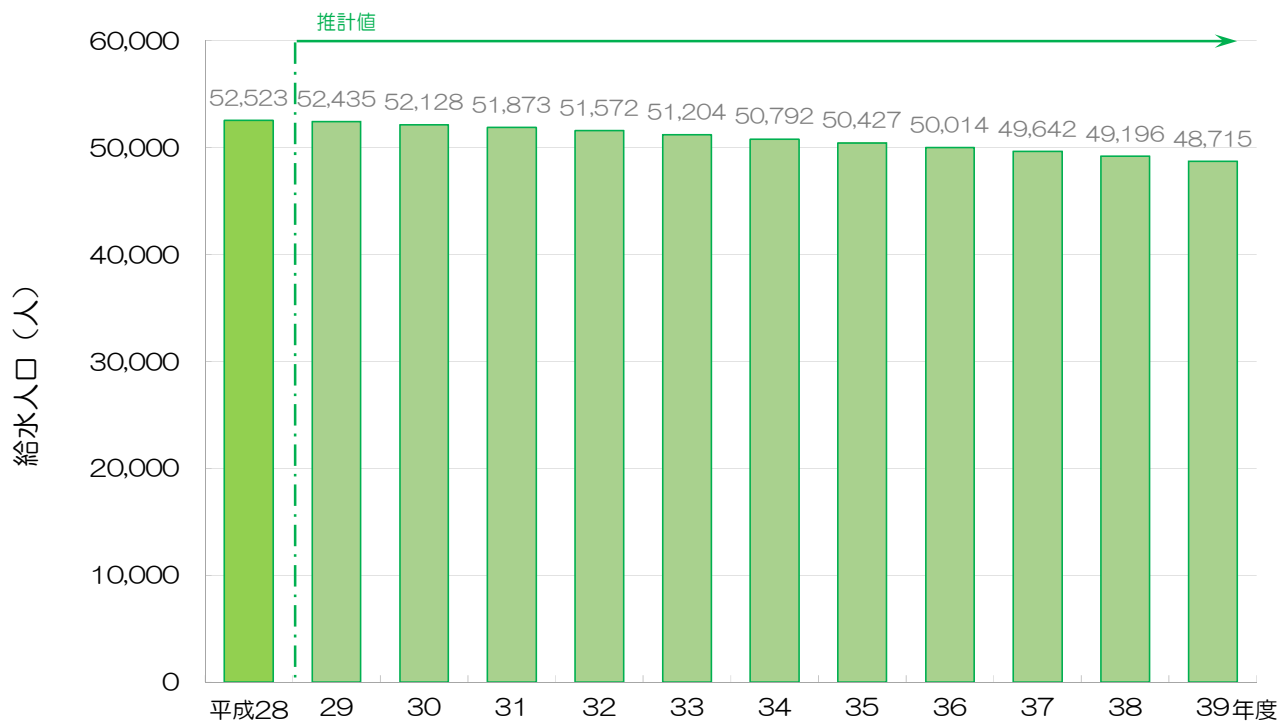


図 4.2 給水人口の推計値

伊万里の水はここから

伊万里市の水道水の92%は、以下の水源でまかなわれています。



有田川の取水口



竜門ダム



松浦川と取水ポンプ場



井手口川ダムと大川浄水場

2) 給水量の予測

(1) 一日平均給水量の推計値

年度(平成)	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
一日平均給水量(m ³ /日)	15,901	17,175	17,062	19,494	19,377	19,267	19,126	18,997	18,856	18,728	18,580	18,470

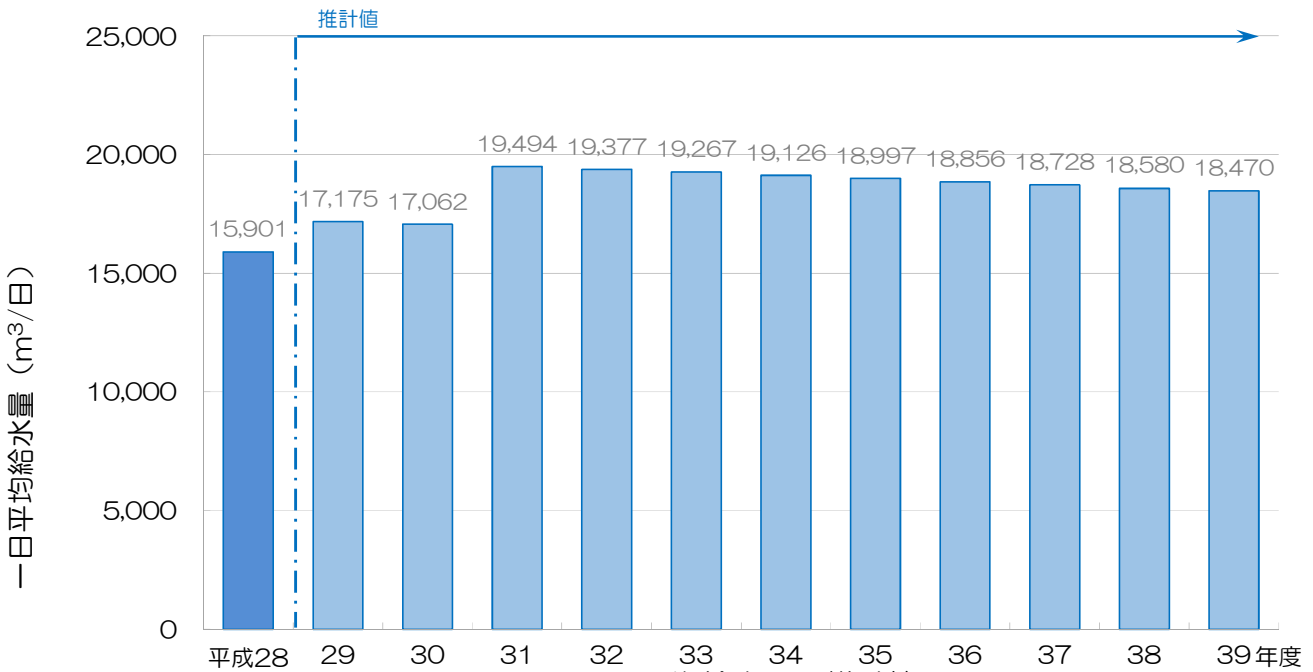
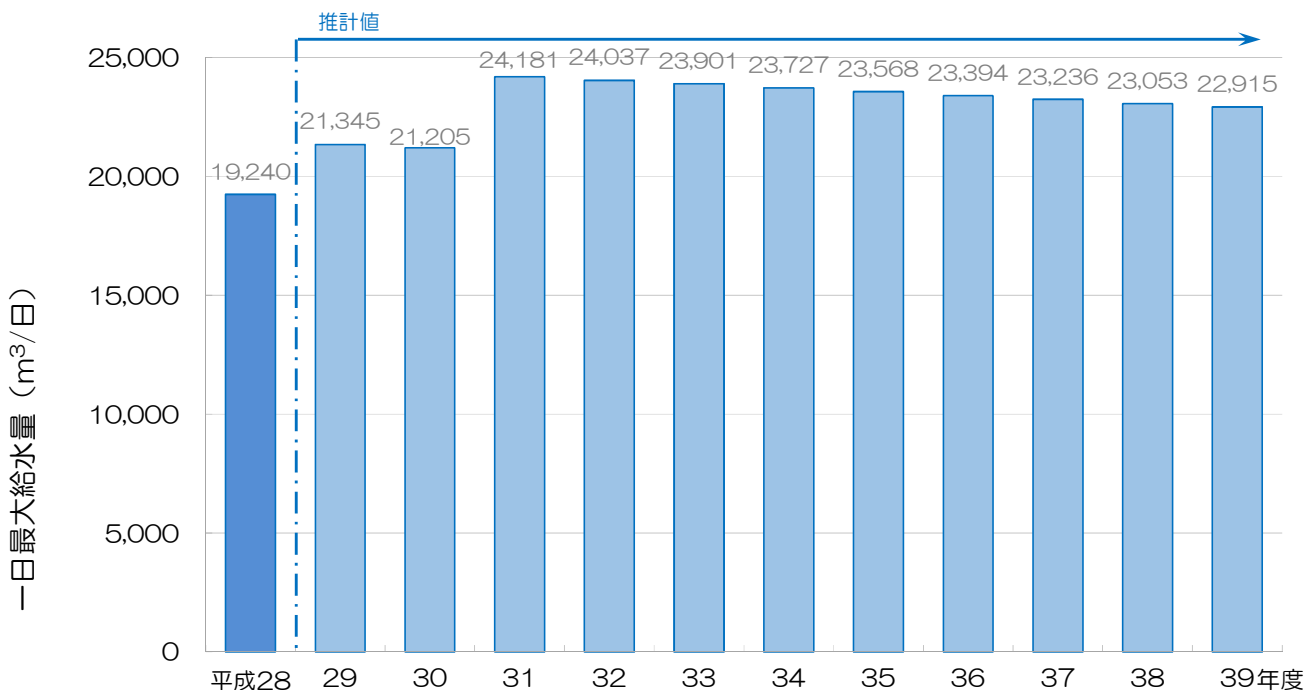


図 4.3 一日平均給水量の推計値

(2) 一日最大給水量の推計値

年度(平成)	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
一日最大給水量(m ³ /日)	19,240	21,345	21,205	24,181	24,037	23,901	23,727	23,568	23,394	23,236	23,053	22,915



伊万里市水道ビジョン 図 4.4 一日最大給水量の推計値

(3) 一日平均給水量の内訳推計値

年度(平成)	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	
有収水量(m ³ /日)	生活用使用水量	10,141	10,788	10,724	10,671	10,608	10,532	10,446	10,371	10,284	10,208	10,115	10,017
	業務・営業用使用水量	2,761	3,001	3,001	3,930	3,930	3,930	3,930	3,930	3,930	3,930	3,930	3,930
	工場用使用水量	773	1,051	1,051	2,345	2,345	2,345	2,345	2,345	2,345	2,345	2,345	2,345
	その他使用水量	98	165	165	165	165	165	165	165	165	165	165	165
小計	13,773	15,005	14,941	17,111	17,048	16,972	16,886	16,811	16,724	16,648	16,555	16,457	
無収水量(m ³ /日)	668	498	495	566	562	558	555	551	548	543	539	535	
無効水量(m ³ /日)	1,460	1,672	1,626	1,817	1,767	1,737	1,685	1,635	1,584	1,537	1,486	1,478	
合計	15,901	17,175	17,062	19,494	19,377	19,267	19,126	18,997	18,856	18,728	18,580	18,470	

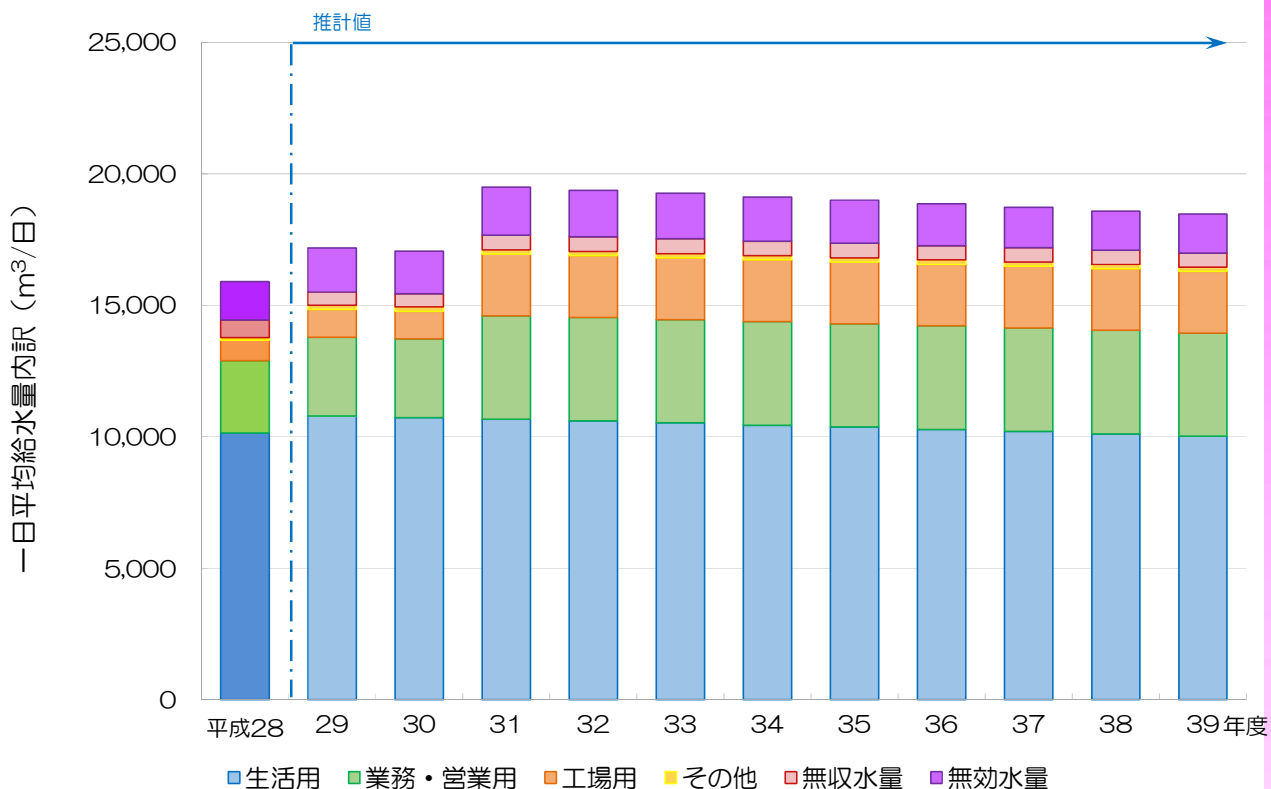


図 4.5 一日平均給水量の内訳推計値

3) 将来の推計結果

将来の給水人口および給水量を推計した結果、概ね 10 年後の平成 39 年度には給水人口が約 48,700 人、一日最大給水量約 22,900m³/日となる見込みです。

4-2 市民アンケート

平成 28 年度に、市の水道利用者を対象として水道事業に関する要望調査（市民アンケート）を実施しました。

（1）調査の目的

水道利用者の皆さまが、現在の水道事業についてどのように感じられているのか、また、将来の水道事業についてどのようなご要望があるのかについて調査したものです。この調査結果は、今後の水道事業運営に反映するための貴重な資料とさせていただきます。

（2）調査対象と方法

伊万里市内にお住まいの方々から、無作為に抽出させていただきました皆様を対象に、アンケート用紙を郵送し、返信用封筒により回答をいただきました。

配布数 4,000 通に対して有効回答は 1,758 通であり、回収率は 44.0%となりました。

（3）市民アンケートの標本数と配布数

市民アンケートにおける必要な回答数と有効回答数を確保するために必要な配布数は下記の通りです。

表 4.1 市民アンケートの標本数と配布数

対 象	戸 数	備 考
標 本 数	1,100 戸	信頼性を確保するために必要な有効回答数
配 布 数	4,000 戸	上記の有効回答数を確保するための配布数

アンケートの信頼性を確保するために必要となる有効回答数（標本数）は、総務省統計局が推奨している式を基にして算出しております。約 20,000 戸の給水戸数からアンケート結果に信頼性が得られるためには、1,100 戸（標本数）からの回答が必要となります。

水道事業に関するアンケートは回収率（配布数に対して回答される割合）が 20～30%程度となっております。したがって、アンケートの配布は 4,000 戸に対して実施し、必要な有効回答数を確保しています。

(4) 市民アンケート調査結果

- ✓ 少なからず節水を心掛けている市民は 73%
- ✓ 節水機器を使用している市民は 48%
- ✓ 水道水を煮沸したり浄水器に通したりなど直接飲用していない市民は 65%
- ✓ 水質に関心がある市民は 37%
- ✓ 水道水が美味しくないと感じている市民は 18%
- ✓ 水道水の安全性に関して不安を感じている市民は 11%
- ✓ 災害時の安定供給に関して不安を感じている市民は 48%
- ✓ 水道料金が高いと感じている市民は 37%
- ✓ 負担をできるだけ抑えた範囲で施設整備をしてほしいと思う市民は 55%
- ✓ 市民が想う伊万里市水道事業の重要事項
 - 1位：おいしい水を供給できる水道施設の整備
 - 2位：地震や災害に強い水道施設の整備
 - 3位：環境に配慮した水道施設の整備・運営、経営を持続できる水道料金

市民の皆様が求める伊万里市水道事業

金銭的負担を抑えつつ、災害に強く、
安心して飲める水を供給できる水道施設の実現

伊万里のおいしい水道水

伊万里市水道部では、市制60周年を記念して、皆様に水道水のおいしさや安全性をPRし、水道事業への理解を深めていただくために、伊万里のおいしい水道水を詰めたペットボトルを製造いたしました。

- 名称：「伊万里のおいしい水道水 眉山の雫」
- 原材料：大川浄水場 高度浄水処理水（生物処理＋膜ろ過）
- ※ ペットボトルは、市のPRイベントや水道の普及啓発活動において配布します。（販売は行っておりませんのでご了承ください）

